

◆特集 ハイブリッド病院図書館に向けて◆

小規模図書館における電子ジャーナルの必要性和選択

坪内 政義

I. はじめに

外国雑誌価格の高騰が問題視されて久しいが、その要因を3点あげてみる。

- ①プリント版発行部数の減少が購読収入の減少を招き、結果、購読料がアップする。
- ②掲載論文の増加によって発行経費が嵩み、結果、購読料がアップする。出版社は経費節減のため電子論文を増加させている。
- ③雑誌の電子化経費を回収するため、購読料がアップする。

雑誌電子化が影響しているとわかる。電子ジャーナルの導入は雑誌購読料増加に対する方策のひとつと考えられるが、値上がり要因に雑誌の電子化があるとは皮肉なはなしである。

それはともかく、学術・医療情報の流通媒体として電子ジャーナルは特別なものではなくなった。本稿では、利用統計などを参考に電子ジャーナルの価値や問題点を整理したうえで、経費、タイトル数、機能などの面から小規模図書館における必要性和選択を考える。

II. 契約の現状

電子ジャーナルの契約内容は毎年のように変化している。しかし、その形態は、大きくみれば、雑誌を基本にする単体契約とパッケージ契約、契約母体を基本にする機関別契約とコンソ

ーシアムに分けられる。

単体契約には、プリント版との組み合わせ(with 電子版、+電子版)によるものと電子版のみを購読する場合とがある。病院にはプリント版購読に含まれる電子版(with)を利用登録するにとどめている図書館が多いが、年を追って電子版を別料金(有料)とする雑誌が増えてきている。予算措置とともに、電子ジャーナルの提供方針を明確にして行く必要があるだろう。

パッケージ契約はコンソーシアムに参加して行う場合が多い。現在成立しているコンソーシアムは、ほとんどが大学図書館を対象にした大規模なものである。病院等の小規模図書館向けは今後の課題であるが、大学や各協会等と連携して利用しやすい契約形態を実現したいものである。その際、出版社と図書館の相互理解が必要であるし、代理店にも取次ぎを主とする従来の役割から、契約や技術など、運用面の支援へと営業の幅を拡大してもらいたい。

III. 機能と利便性

電子ジャーナルにはプリント版にない便利な機能がある。代表的なものとして「リンク」「はやさ」があげられる。

目前の論文の、その向うにある情報源を示し、しかも瞬時にアクセスできるリンク機能は電子ジャーナル特有の機能である。そうして読む論文はプリント版に印刷されるより、はるかに早く Web 上で公開される。こうした利便性、す

TSUBOUCHI Masayoshi

愛知医科大学医学情報センター (図書館)

mtsubo@aichi-med.u.ac.jp

なわち電子ジャーナルの情報価値は間違いなく高いといえる。

ほかに、全文を対象とする「検索機能」を持つため、書誌データベースとは異なる検索結果を得る可能性がある¹⁾。また、電子媒体であるがゆえにプリント版とは比較にならない正確な「利用統計」を入手することができる。

当然のことながら、配架スペースを必要としない（小規模の図書室は数年でバックナンバーを廃棄する場合が多い）、製本費を要しない、これらも決して無視できない利便性といえる。

IV. 利用の現状

利用統計やアンケート調査から、電子ジャーナルの利用実態を把握することができる。規模の大きさや手法の綿密さ、設問の立て方などから大いに参考になるものに、2000年から2002年にかけてStanford大学図書館とHighWire Pressが実施した電子ジャーナル利用調査プロジェクト(e-Journal User Study: eJUS)の調査結果^{2,3)}がある。これに、筆者らが2001年から2003年にかけて行った愛知医科大学での利用アンケート結果⁴⁾を加えて整理すると、次のような利用実態がみえてくる。

1. 利用実績と普及度

電子版とプリント版の両方あれば70%以上の利用者が電子ジャーナルを選ぶ。結果として、プリント版の図書館での閲覧は電子ジャーナルが利用できない場合に限られる。回答者の7割近くが週一度は電子ジャーナルを利用している。

2. 使い勝手

電子ジャーナルであっても論文を画面上で読むのではなく、70%近くが印刷して読んでいる。論文入手までのプロセスにおいて電子ジャーナルはプリント版より優れていると評価されるが、読むための媒体として紙は今でも優位にある。

電子ジャーナルの機能のなかで、利用度、有効度ともにもっとも高い数値を示すのは引用文献などへのリンク機能である。また、PubMed経由のアクセスが最も多いのは調査の規模に関

わらず共通である。論文間のリンク、書誌データベースと電子ジャーナルのリンクは、情報流通の不可欠の手段となっているようである。

3. 読み方の変化—診療や研究への影響

電子ジャーナルの登場によって文献入手に要する時間は明らかに短縮された。仔細に読むものからざっと目を通すだけのものまで、読む論文の数も増えているとの回答がある。ただし、その結果、自身の研究成果発表件数（例えば論文生産数）が増加しているかということ、今のところそのような回答結果は出ていない。しかし、今後、こうしたところにも電子ジャーナルの影響があらわれる可能性がある。

4. 不安要素—バックファイル

電子ジャーナルに関する問題点としてもっとも一般的なのが、バックナンバーの閲覧が保証されなかったり不明であったりすることである。これはeJUSでも同様に示されている。少なくとも購読契約した期間（年）については、その後の契約如何に関わらずアクセス権を認めるなど、出版社の対応を望みたい。

5. 図書館業務への影響

愛知医科大学医学情報センター（図書館）での統計によれば、電子ジャーナルが利用されはじめて以来、次のような傾向が見られる。

- (1) 入館者（医師、研究者）の減少
- (2) 複写枚数の減少
- (3) プリント版貸出、閲覧件数の減少
- (4) 製本費、製本冊数の減少
- (5) 相互貸借件数への影響

こうした傾向には種々の要因があるだろうが、いずれも電子ジャーナルと無関係ではないと考えている⁴⁾。

V. 必要性和選択

1. 電子ジャーナルは安くない

冒頭でも述べたように、電子ジャーナルはプリント版より安く、雑誌購読費の増加を抑える効果があると考えがちである。しかし、本当にそうだろうか。愛知医科大学では、プリント版

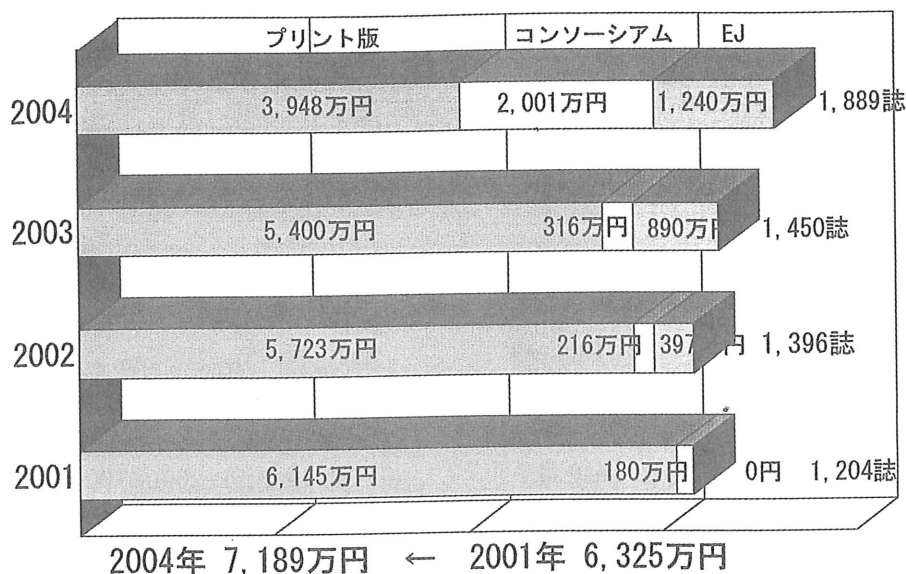


図1 外国雑誌購読費（プリント+EJの推移） 愛知医科大学医学部

購読費と電子版契約料は別の費目で計上するが、予算編成は両者をセットと考えて行う。過去4年の推移を図1に示す。こうした数字は各館の運営次第であって一律には捉えられないが、電子ジャーナルの導入によってタイトル数が増えると同時に経費も増加する（少なくとも減少しない）例として紹介するものである。提供タイトルの数や1誌あたりの平均価格を重視する考え方も十分頷ける。しかし、残念ながら多くの場合、予算の枠は限られている。

2. コンソーシアムの問題点

コンソーシアムのよさは“比較的”廉価で多くの雑誌の閲覧が可能になることである。現在では電子ジャーナル購読方法の主流であることは間違いない。だが、パッケージに収録される雑誌は利用されているのだろうか。愛知医科大学が契約するあるコンソーシアムパッケージの利用状況（2002年1月から2004年6月まで）を調べると、4割の雑誌がほとんど利用されていない。価格とタイトルの釣り合いは非常に微妙な問題だが、利用できる雑誌が多ければ

それでよいと考える図書館はないはずである。また、出版社系コンソーシアムにはプリント版をキャンセルしにくくする条件がついている場合が多く、このため蔵書構成や予算配分に偏りが生ずる恐れもある。こうした問題はかねてから指摘されており⁵⁾、これからは、有用なタイトル数、掲載論文の質、サイトの使い勝手など、中味の評価に目が向けられるようになるだろう。

3. 小規模図書館向けコンソーシアム

病院図書室をはじめとする小規模図書館は既存のコンソーシアムの対象となっていないだけに、今後、出版社や代理店の営業対象として重要になるはずである。小型のパッケージによる柔軟なコンソーシアムを成立させることができないだろうか。あらかじめ用意されたパッケージから必要なタイトルを選択する、その結果、契約料も規模に応じた“適正な”額に抑えられる。今は、そうした新しい契約スタイルを模索するチャンスではないかと考える。

4. 必要性と選択基準

電子ジャーナルにはプリント版にない機能が

あり、その導入は図書館のあり方を変化させる可能性がある。見てきたとおり、電子ジャーナルはすでにプリント版の代替物ではない。機能や価値を評価し、何が（どちらが）図書館サービスに有益なのかを判断したい。図書室の事情や運営方針によって資料＝情報の必要性は異なるが、一般に想定しうる選択のための判断基準をあげてみる。

①必要性 ①用途 ①機能 ①購読状況 ①価格
①予算措置

どれも重要なのですべて①とした。雑誌の情報価値をタイトルごとに判断し、電子版かプリント版かを選択する。そのうえでコンソーシアムの形成や参加を視野に入れる。こうした電子ジャーナルへの取り組みは、図書館の存在意義をPRするための手がかりにもなる。

（本稿は、2004年8月6日に開催された第11回日赤図書室協議会公開講座での講演に加筆したものである）

参考文献

- 1) 渡辺正彦：医学文献の全文検索。情報の科学と技術 2004 ; 54 (4) : 198-202.
- 2) Stanford University Libraries, HighWire Press. e-Journal User Study(eJUS). [引用 2004.8.23]. <http://ejust.stanford.edu/>
- 3) 阿蘇品治夫：電子ジャーナル利用の傾向と対策。カレントアウェアネス 2004 ; 279 : 2-3.
- 4) 小林晴子、坪内政義：電子ジャーナルが図書館サービスに与える影響。医学図書館 2003 ; 50 (3) : 218-225.
- 5) Frazier K : The Librarians' dilemma : contemplating the costs of the "Big Deal". D-Lib Magazine 2001 ; 7(3) [引用 2004. 8. 23]. <http://www.dlib.org/dlib/march01/frazier/03frazier.html> (尾城孝一訳：図書館員のジレンマ—ビッグ・ディールのコストについて考える— [引用 2004.8.23]. http://home.catv.ne.jp/rr/ojiro/big_deal.html)